

## 海外協力活動紹介

### "Muli Bwanji !"



修徳小学校 宮村 香

Muli Bwanji ! アフリカ大陸南部、ザンビアで青年海外協力隊として活動している宮村香です。

ザンビアの人口は73部族で構成されており、主に7つの部族語が日常会話として用いられています。冒頭の"Muli Bwanji" (ムリ ブワンジ) とは私が住んでいる首都ルサカ周辺で使われているニャンジャ語の挨拶です。英語で言えば "How are you?" です。公用語は英語なのですが、このニャンジャ語を使って会話をするとザンビアの人達はとっても喜んでくれます。しかし、私が覚えていくニャンジャ語は授業で子どもを叱る言葉ばかり。"チョンゴ!イーウェ!!" (うるさい!), "チョカンコウニ!" (どいて!)…。来年、桑名に帰ったらニャンジャ語講座を開くことができるかもしれませんね。

ザンビアでの私の活動はBasic Schoolへの体育教育の推進です。小学校1年生から中学3年生に体育の授業を教えています。さらに、5月から始まった2ターム目(2学期)からは、担任の先生達が体育の授業をしていけるよう、3つの学校の巡回指導も始めました。ザンビアでは情操教育が重要視されておらず、体育の授業は時間割に書いてあるだけで実際には行われていません。今まで体育の授業がなかった学校に行くと、子ども達は大喜びで大地を駆け回ります。グラウンドも整備されていない(グラウンドがある学校は良いほうです)、体育用具もほとんどない。そのような中、私の苦手な英語を使って体育の授業をするのはかなりのパワーが必要ですが、子ども達の楽しそうな笑顔と体育教育の推進を一緒に進めていこうとしている先生達に励まさ



れながら、これからも活動していきたいと思っています。

ザンビアで生活し始めたばかりの頃は、ザンビアもザンビア人も大嫌いでした。働いてもいないのに昼間から酔っ払って絡んでくる男の人、水が自由に使えず、すぐ停電になり、防犯のために鉄格子のドアを幾重にも閉めなければならない家…。でも、ここはザンビア。ザンビアの人達はそれでとても幸せに楽しく生活しているのです。この国に協力隊なんて本当は必要ないんだと思います。生活するのが精一杯の毎日で逆に協力されてばかり。今はザンビアの生活にも慣れ、優しく、気が良いザンビアの人達と毎日楽しく過ごしています。

最後にザンビアの文化について。ザンビア人の主食は"Nshima"という、とうもろこし(メイズ)の粉(ミルミル)から作った柔らかい蒸し餅?のようなものです。そのシマを



少しずつ手で握りながら、野菜やチキン、ビーフのスープをつけて食べます。これが結構おいしく、私もよく食べています。服は"チテンゲ"という2m×1mの色彩鮮やかな布を腰に巻くだけ。これはもちろん女の人だけですが、男の人もチテンゲシャツを作って着たりしています。女の方は巷に多くいるテーラー(仕立て屋さん)に頼み、スーツを作って着ています。修徳小学校に作ってもらったチテンゲスーツが置いてあるはずですが、興味のある方は是非、身に着けてみてください。そして、ザンビアについてもっと知りたい!と思った方、興味をもたれた方はホームページ(<http://www.011.upp.so-net.ne.jp/HappyLife-386/>)をのぞいてみてください。きっと皆さんがイメージしているアフリカではなく、私の感じたりリアルなアフリカを感じることができるとと思います。ザンビアには世界三大瀑布の一つ、ピクトリアフォールズもあります。どなたでも遊びに来てくださいね!…と言えるほど近くない距離ですが。それでは、来年の4月に桑名でお会いできるのを楽しみにしています。Tizaonanal

